



校 訓	理想は高く 心清らかに	教 育 目 標	未来を拓く、心豊かな心身ともにたくましい 生徒の育成 ～感性を磨き自立を育む教育～
--------	----------------	------------------	--

心のふるさと



毎年、秋になると聴きたくなる曲があります。それは、山口百恵の「秋桜」です。秋桜は秋を代表する花。赤やピンクのかわいい花が風に揺られている様は風情があって何とも言えませんね。

先日、本校の「音楽の夕べ」がありましたが、「秋桜」も演奏され、その見事な音色に感動、感動！あの曲は、嫁ぐ娘とその母親のしみじみとした情感を歌ったものだと思いますが、哀愁を帯びたメロディーを聞いていると涙があふれて、こらえるのに困りました。

秋は、さわやかな季節ではありますが、私にとっては憂いと物悲しさを含んだ季節でもあります。秋桜のきれいなころ、38歳で母が亡くなったからです。6年生の時でしたが、百太郎溝の土手や田んぼの畦道に咲いた美しい秋桜を見ながら、寂しい思いで登下校していたことが思い出されます。

母と言えば、先日、母が小学校6年生の時に書いた「習字」の作品が見つかりましてね、びっくりしました。母は菊池の隈府の生まれなんですけど、叔父、母の弟になりますけど、その叔父が実家の倉を整理していたところ、母の「習字」が見つかったとあって、わざわざ表装して送ってくれたんです。不思議なことに、ちょうど母の誕生日に見つかったそうでして、何か因縁めいたものを感じたと叔父が言っておりました。

子どもの頃の母の作品なんてこれまで見たことありませんでしたので、とても嬉しくて、時間も忘れて見ておりました。文字は「真心」と書いてあります。自分で言うのもなんですが、6年生にしてはまとまりがあって、優しさが感じられます。

じっと見つめていますとね、母が何か語りかけてくるようで・・・、「元気にしているかい。お前に会いに来たんだよ。いろいろ大変なこともあるかもしれないけど、しっかり生きていくんだよ。お父さんを頼むね・・・」思わず、文字に触りました。気のせいか温もりを感じましてね・・・、つい、涙を流してしまいました。

数十年の時を経て母と心の交流ができたみたいで、心豊かなひとときを過ごすことができました。いつまでたっても母親というのは「心のふるさと」のようです。